

香川県の地震

令和7年（2025年）11月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	2
香川県の地震表（震度1以上）	・・・	3
震度分布図	・・・	3

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果

（令和7年（2025年）12月5日）	・・・	4
--------------------	-----	---

地震一口メモ

津波情報等に活用する観測地点の追加について	・・・	5～6
-----------------------	-----	-----

この資料の震源リスト・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

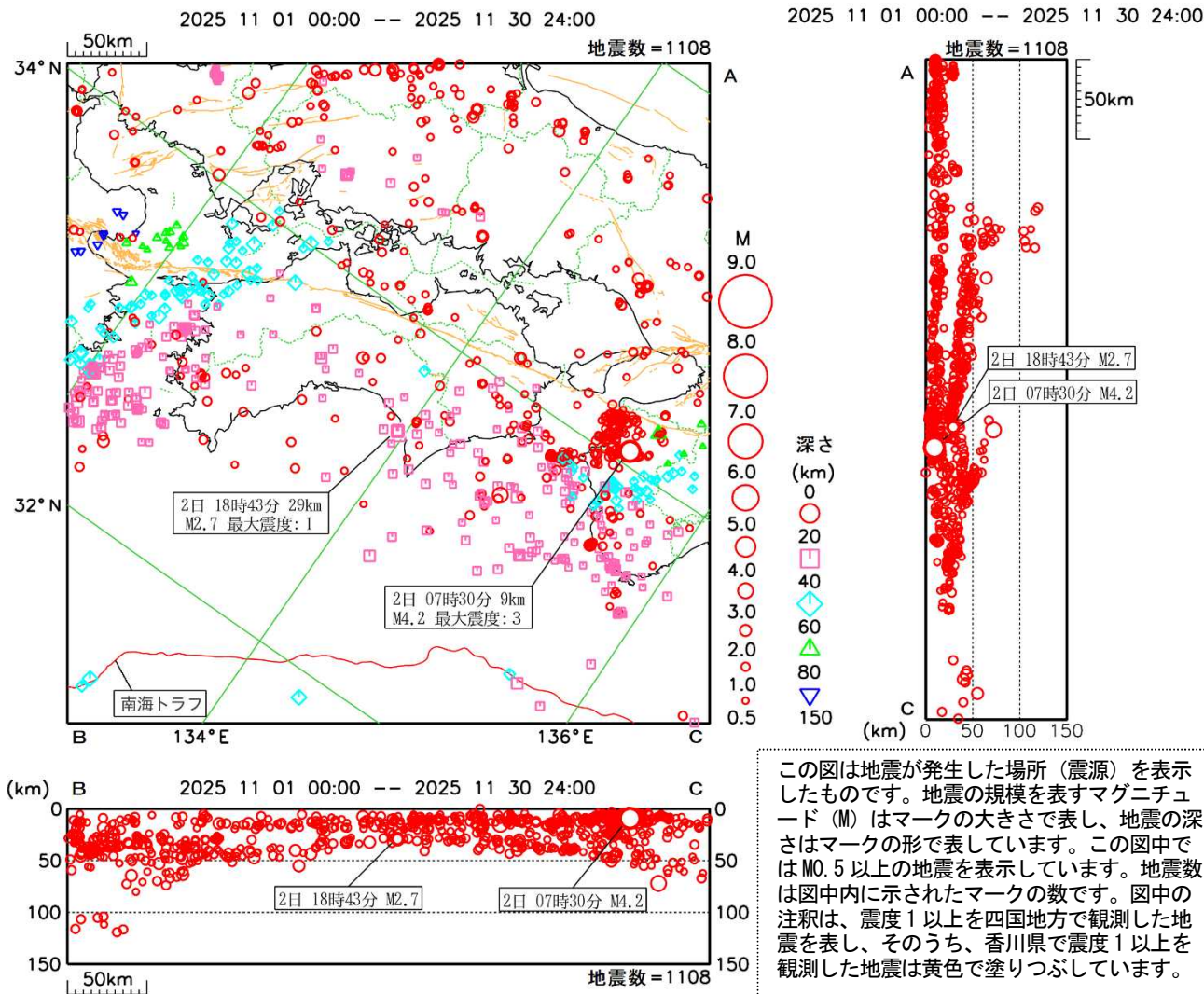
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2025 年 11 月

◎震央分布図、断面図



〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、次の1回でした（前月は1回）。

25日18時01分 熊本県阿蘇地方の地震（深さ9km、M5.8：震央分布図地図範囲外）により、観音寺市・多度津町で震度1を観測しました。この地震では、熊本県産山村で震度5強を観測したほか、近畿・中国・四国・九州地方にかけて震度5弱～1を観測しました。

四国で震度1以上を観測した地震（上記の地震を除く）は、次の5回でした。

2日07時30分 和歌山県北部の地震（深さ9km、M4.2）により、徳島県阿南市・牟岐町・那賀町で震度1を観測しました。この地震では、和歌山県かつらぎ町・高野町・湯浅町で震度3を観測したほか、和歌山県、奈良県、大阪府、三重県で震度2～1を観測しました。

2日18時43分 土佐湾の地震（深さ29km、M2.7）により、高知県高知市で震度1を観測しました。

7日01時23分 日向灘の地震（深さ23km、M4.7：震央分布図地図範囲外）により、高知県宿毛市で震度1を観測しました。この地震では、宮崎県美郷町で震度3を観測したほか、九州地方で震度2～1を観測しました。

7日04時25分 日向灘の地震（深さ22km、M4.4：震央分布図地図範囲外）により、高知県宿毛市で震度1を観測しました。この地震では、宮崎県美郷町で震度3を観測したほか、宮崎県、大分県、熊本県で震度2～1を観測しました。

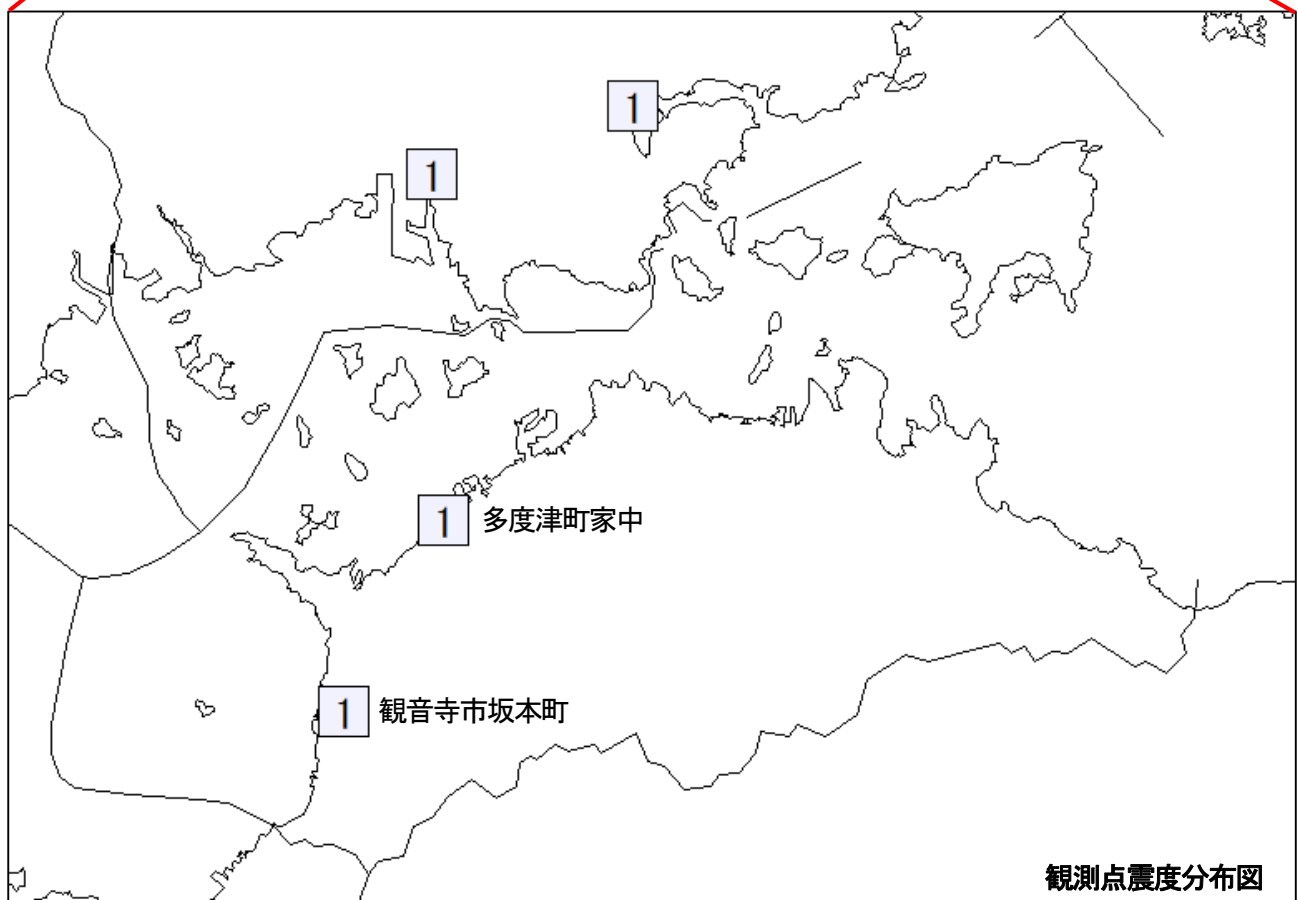
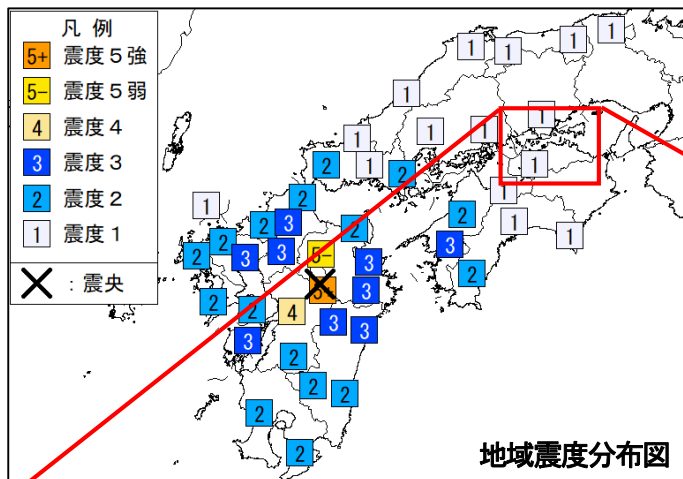
25日21時59分 熊本県阿蘇地方の地震（深さ9km、M4.3：震央分布図地図範囲外）により、高知県宿毛市で震度1を観測しました。この地震では、熊本県阿蘇市・南阿蘇村、大分県竹田市で震度4を観測したほか、九州地方で震度3～1を観測しました。

◎香川県の地震表（震度 1 以上）

震源時（年月日時分） 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2025 年 11 月 25 日 18 時 01 分 香川県 震度 1：観音寺市坂本町, 多度津町家中	熊本県阿蘇地方	32° 59.8' N	131° 06.4' E	9km	M5.8

◎震度分布図

2025 年 11 月 25 日 18 時 01 分 熊本県阿蘇地方の地震



【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

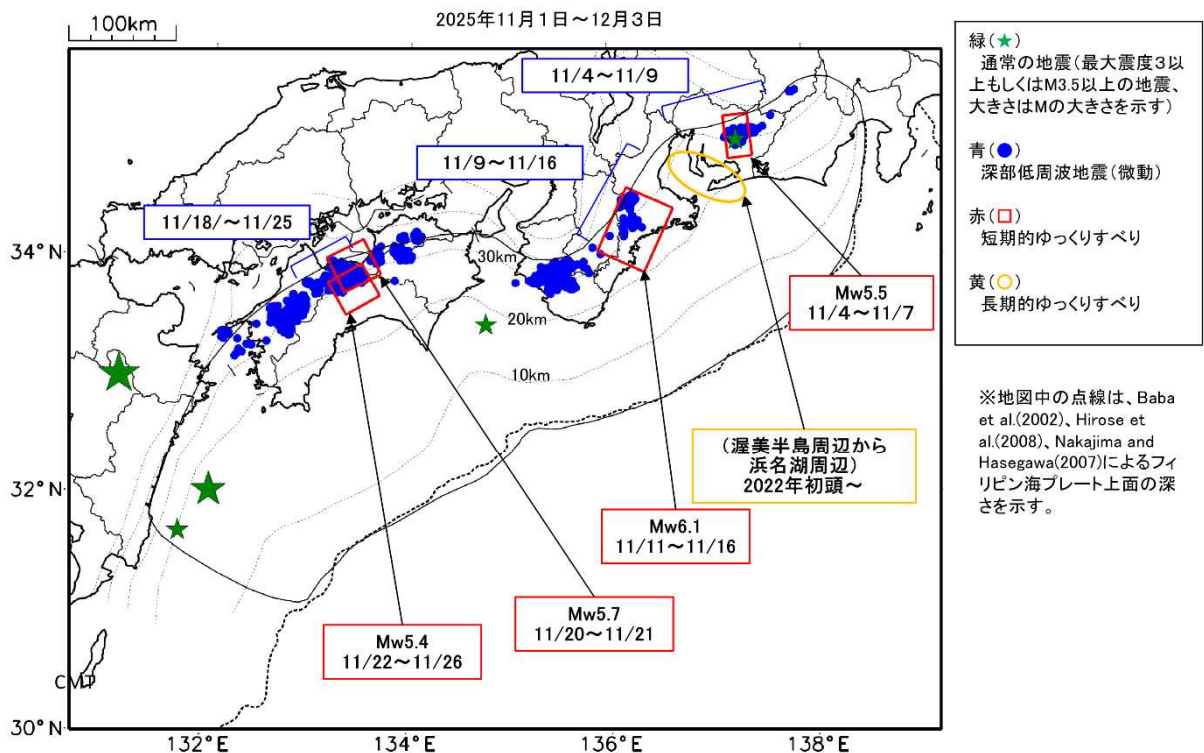
令和7年(2025年)12月5日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果 (概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（M8からM9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が高い（詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」参照）と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震（最大震度3以上もしくはM3.5以上）……………気象庁の解析結果による。
深部低周波地震（微動）……………（震源データ）気象庁の解析結果による。（活動期間）気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり……………【東海】気象庁の解析結果を示す。【紀伊半島北部、四国中部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり……………国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震（青●）、短期的ゆっくりすべり（赤□）、長期的ゆっくりすべり（黄○）について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

南海トラフ地震関連解説情報について —最近の南海トラフ周辺の地殻活動—

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2512/05a/nt20251205.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ（URL）をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

津波情報等に活用する観測地点の追加について

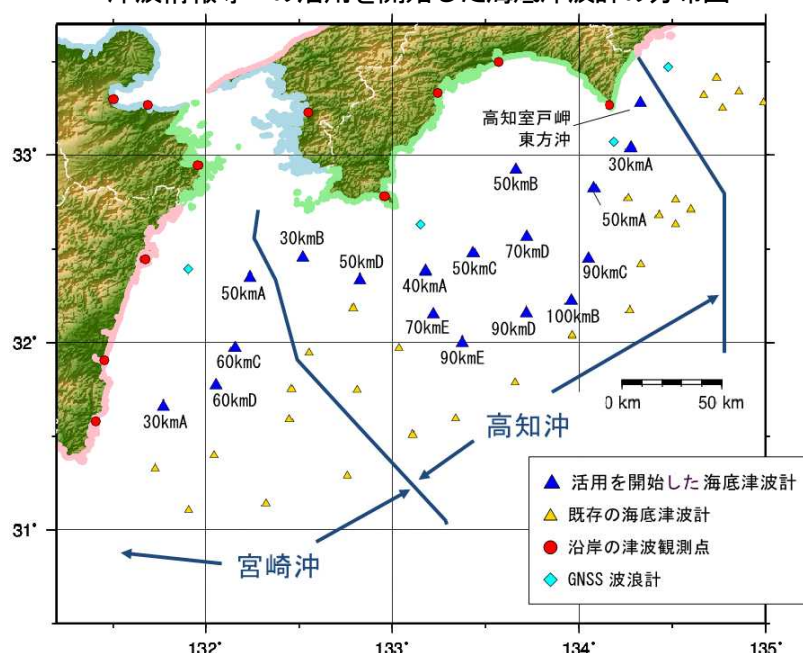
気象庁は、関係機関の協力も得て、沿岸の津波観測点や沖合に設置された海底津波計及び海底地震計の観測データを津波警報等及び津波情報の発表等に活用しています。今般、津波観測データの品質確認等を行い、準備が整ったため、南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）「沿岸システム」津波観測データについて、令和7年11月20日（木）12時から津波情報等への活用を開始しています。

津波情報等への活用を開始した海底津波計（18 か所）

情報発表地点名称	地点名称の読み	津波予報区	所属	備考
高知沖90kmC	こうちおき90kmC	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖90kmD	こうちおき90kmD	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖90kmE	こうちおき90kmE	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖70kmD	こうちおき70kmD	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖70kmE	こうちおき70kmE	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖50kmA	こうちおき50kmA	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖50kmB	こうちおき50kmB	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖50kmC	こうちおき50kmC	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖50kmD	こうちおき50kmD	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖40kmA	こうちおき40kmA	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖30kmA	こうちおき30kmA	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖30kmB	こうちおき30kmB	高知県	防災科学技術研究所	
高知室戸岬東方沖	こうちむろとみさきとうほうおき	高知県	防災科学技術研究所	
高知沖100kmB	こうちおき100kmB	—	防災科学技術研究所	※
宮崎沖60kmC	みやざきおき60kmC	宮崎県	防災科学技術研究所	
宮崎沖60kmD	みやざきおき60kmD	宮崎県	防災科学技術研究所	
宮崎沖50kmA	みやざきおき50kmA	宮崎県	防災科学技術研究所	
宮崎沖30kmA	みやざきおき30kmA	宮崎県	防災科学技術研究所	

※「沖合の津波観測に関する情報」において、沿岸からの距離が100kmを超えるような沖合の観測点では、津波予報区との対応付けが難しいため、対応する津波予報区はなく、沿岸での推定値は発表しません。

津波情報等への活用を開始した海底津波計の分布図



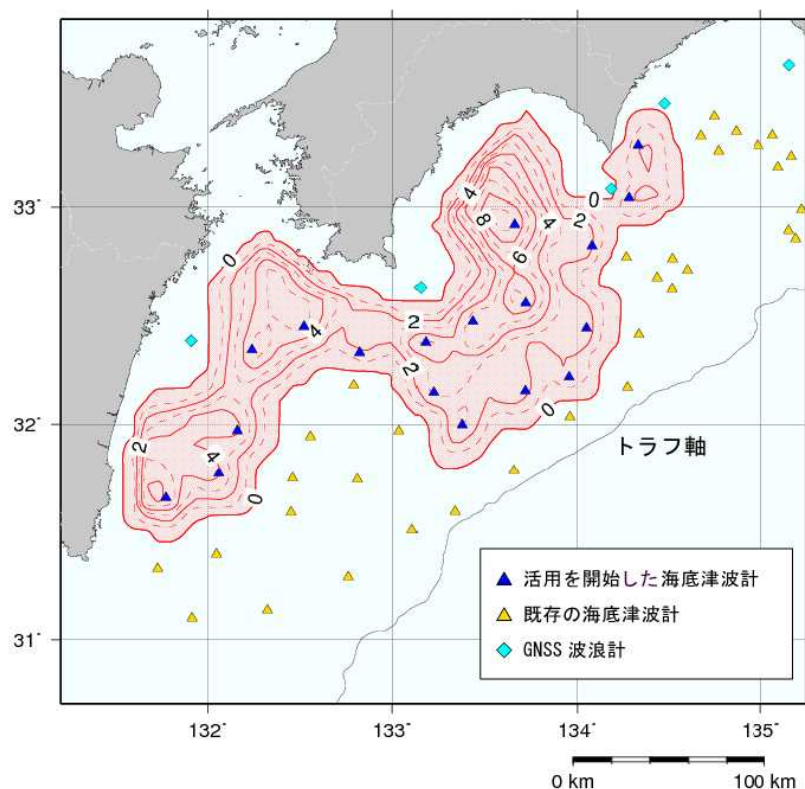
活用を開始した海底津波計の地点名称について、「〇〇沖」を省略して記載。

これにより、津波の検知が最大で約 10 分早くなるなど、津波警報等の更新及び津波情報の発表の迅速化や精度向上が図られます。また、津波情報において津波の観測値を発表する沖合の津波観測点は 250 地点から 268 地点に増加しています。

なお、N-net「沖合システム」、N-net「沿岸システム」全体を津波情報へ活用することにより、津波の検知は最大で約 20 分早くなります。

また、N-net「沖合システム」津波観測データについては、令和 6 年 11 月 21 日から津波情報等へ活用しています。

今回の観測点の追加による津波早期検知の効果



等値線は今回の観測点の追加によって津波検知がより早くなる時間（単位：分）。
赤く塗った領域で発生した津波の検知が現在より早くなる。

（参考）N-net の緊急地震速報への活用について

N-net「沖合システム」の地震観測データは、令和 7 年 10 月 15 日から緊急地震速報への活用を開始しており、N-net「沿岸システム」の地震観測データは、現在、活用に向けてデータの品質確認等を実施しています（活用開始時期は未定です）。

南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）

国立研究開発法人防災科学技術研究所が、南海トラフ地震発生時の被害軽減や防災科学技術の発展に貢献することを目指し、南海トラフ地震の想定震源域のうち、それまで観測網が設置されていなかった西側（高知県沖から日向灘）の海底に整備した、地震計と水圧計を備えた地震津波観測網です。この観測網は、令和 6 年に整備が完了した「沖合システム」と、令和 7 年 6 月に整備が完了した「沿岸システム」から構成されます。

N-net : Nankai Trough Seafloor Observation Network for Earthquakes and Tsunamis

報道発表のページ : https://www.jma.go.jp/jma/press/2511/14b/20251114_N-net.html